（英語力と投資力を同時に高める欲張り eBook）
お金になる英語　投資家向け英字新聞 Pick Up !
＊　リーダーシップ・メリーゴーラウンド　＊

こんにちは。楽しい投資研究所の庄司です。

今回は New York Times (NYT) と The Economist 両誌から記事を取り上げます。

話題の中心は、前回に引き続き、世界的に注目を集める日本の政治家・小沢一郎氏です。

[PR] 当メルマガ発行者の著書「バフェットの謎」発売中です
---読者さんの声---
バフェットという人物に興味があり知りたかったのですが、どの本も難しく
どちらかと言うとどう投資するかについての本が多いと感じていました。
「バフェットの謎」は、私が求めていたぴったりの本でした。
また（読者特典の）コンテンツ＆オーディオブックも楽しみです。
（N.A さん　千葉県　男性　30 代）

著者として嬉しい限りです。オーディオブックも楽しんでいただけたら幸甚
です。iPod でも聴けますよ。（庄司）
※書籍「バフェットの謎」　→　http://amzn.to/aQN8Gz

[ここから本編です]

I. Today's topic and vocabulary

"Japan's Leadership Merry-Go-Round"

Japan's frequent leadership changes are dizzying and increasingly counterproductive. The country has had 14 prime ministers in the last two decades and could soon have another.
[The New York Times, Sep 7th 2010]

(Vocabulary)
-dizzy： めまいがする
-counterproductive： 逆効果

(記事概略)
日本の総理大臣は過去 20 年間で 14 人も入れ替わり立ち替わりしている。
その上、近々15 人目の首相が誕生するかもしれないのが今の日本である。

※日本の首相がころころと変わる事態にうんざり、もとい苦言を呈している NYT 紙。

(続き)
Japan is the world's third largest economy and a technological and regional power.
It needs a prime minister who can offer robust, principled leadership over a sustained period, win support for economic policies that would help pull the world out of recession and maintain a strong alliance with the United States.
[The New York Times, Sep 7th 2010]

(Vocabulary)
-robust： 強く健全な
-principled： 信念を持ち倫理的な
-sustained： 継続的な
-recession： 不況
-alliance： 同盟

(記事概略)
日本は、（最近中国に抜かれたが）世界第３位の経済規模を誇り、テクノロジー面での優位性を持つ強国である。

日本に必要なのは、中長期に渡って、世界を不況から引き上げる一助となりうる経済政策を実行に移せるような、そしてアメリカとの強い同盟関係を維持しうる、プリンシプルを持った（信念を持ち、かつ倫理的な）リーダーである。

(SHOJI's comment)
そこで次の首相となる可能性も高い小沢一郎氏であるが、と紹介される。
ここで引用されるのが小沢氏の次の発言である

His (Mr Ozawa's) comment last month that Americans are simple "single-celled organisms" doesn't seem to be the best way to make new friends.
[The New York Times, Sep 7th 2010]

(Vocabulary)
single-celled： 単細胞の

(記事概略)
先月、小沢氏はアメリカ人を「単細胞」と評した。このような言動は、新たな友人を得ようとするのに最善の方法とはいいがたいであろう。

(SHOJI's comment)
小沢氏の「アメリカ人は単細胞」発言。どの海外メディアも、日本の小沢氏といえばこのことばを取り上げる。

彼には日米関係を良好に保つ意志があるのか、と NYT 紙の編集者が懸念するのも無理はない

ところで、英 The Economist 誌は２号続けて小沢氏を大きく取り上げた。

同誌は彼を「国民の間では不人気でも党内の派閥関係において大きな力を持つ政治家」として紹介する。

彼の派閥に属する議員は、世論の如何にかかわらず、その領袖を支持する他ないのだろうとも。

同誌は「20 年もの間、経済的な混乱状態が続く日本には、政治家の（派閥のボスに対する）盲目的な忠誠心などではなく、信念を持ってリスクを取りに行く断固としたリーダーシップが必要なのだ」と論ずる。そして次のように結ぶ。

(The Economist の記事より)
In June they left vapid Mr Hatoyama in no doubt he should resign. The next month they dealt a sharp blow to Mr Kan. If the DPJ picks Mr Ozawa as Japan's next leader, it can expect no mercy.
["Self-destruction" The Economist, Sep 4th 2010]

-vapid： 知性も魅力も想像力も欠如した
-no doubt： 疑いなく
-resign： 辞任する
-DPJ：Democratic Party of Japan 民主党
-no mercy： 無慈悲な

(記事概略)
１年前、民主党は自民党を野党にしりぞけた。
６月には vapid (*1) な鳩山氏が辞任を強いられた（疑いなく彼は辞任すべき人物ではあった）。

---(途中ですが　SHOJI's comment)---
(*1) The Economist 誌が鳩山氏に用いた形容詞は "vapid" である。
意味は "lacking intelligence, interest, or imagination" 「知性も魅力も想像力も欠如した」とういもの。この辛辣さはすさまじい。
仮にもわが国のリーダーであった人物をこんな風に評する外国メディアを日本国民は怒るべきであろう。
しかし私は怒れない。悲しいかな、同意することしかできない。

(記事概略・続き)
その翌月に彼らは菅氏を追い落としにかかった。

もしも民主党が次のリーダーとして小沢氏を選出するというのなら、もはや救いようがない。

(SHOJI's Comment)
自己破壊的、とみなされているのが今の日本である。その頭脳が民主党政権。
政権交代のコストとは、こんなにも高くつくものなのでしょうか。

II. 発言 picked up :

「日本の直面している様々な課題や新成長戦略を閣議決定して実施しようという矢先に代表選とはなんたることか」
（米倉弘昌 日本経団連会長, 北京にて）（日経 2010.9.8）

[告知] このメルマガ発行者の著書「バフェットの謎」発売中です。

---(読者さんの声)---
書店で偶然見かけ、昔出版された「磯野家の謎」という本を思い出し、バフェットの面白いネタ本と勘違いして思わず購入しました。
バフェットからの手紙最新版といった感じでとても興味深く読ませていただき、とても参考になりました。
こういった本を数年ごとに出版していただけるととても嬉しいです。
バフェットに長生きしてもらわないといけませんけどね（笑）
(K.H さん　栃木県　男性　30 代)

なにはともあれ、ありがとうございます。結果オーライで幸いでございます。(庄司)

ご興味がおありの方はチェックしてみて下され。
※書籍「バフェットの謎」　→　http://amzn.to/aQN8Gz

□ 編集後記

最近、New York Times 紙の購読を始めました。Amazon の 電子書籍 Reader "Kindle" を手に入れたのがきっかけです。
ニューヨーク時間の午前５時（日本時間 18 時）に配信されてくるのです。料金は月 27.99 ドル。

海外に旅行するときは毎朝、現地の新聞を買って読むのが楽しみの私です。特に日本では手に入れにくい新聞とか。

それが日本にいながらにしてリアルタイムで電子的に届けられるのですから、なんと楽しく便利な世の中になったことでしょう。

Kindle も意外なほどに読みやすくて、毎日感動しております。

□ もうひとつの編集後記

中国の英字紙 Shanghai daily (上海日報)も購読を始めました。もちろん Kindle 版です。月 9.99 ドル（安い)。

こちらは毎朝、上海時間の 10 時に配信されます。日本の 11 時。

この新聞は、中国共産党のコントロール下にあるメディアです。なので、記事の内容にはある程度の偏りがあるはずと思いながら読まねばなりません。

私がこの新聞に求めるのは、中立的な記事ではありません。中国の指導者層が何をどう考えているのか、自国の民をどう導いていこうとしているのか、その意図を、記事を通して感じ取りたいと思うのです。

発行者：SHOJI（投資家 / 公認会計士）
楽しい投資研究所　http://www.1toushi.com/
Copyright (c) 2010 All rights reserved by Takuya Shoji